

第5回青森市総合計画審議会 第3分科会 議事要旨

【日 時】 令和6年5月27日（月） 13:30～14:20

【場 所】 アップルパレス 2階 マリアージュ

【出席者】 佐々木 淳一 分科会会長、小山内 敬子 委員、
佐藤 一成 委員、立木 祥一郎 委員、本田 明弘 委員 計5人

【欠席者】 なし

【オブザーバー・傍聴者等】 なし

【関係部局】 木村市民部次長、佐々木環境部長、土岐保健部生活衛生課長、中井都市整備部長、
石村浪岡振興部次長、大久保教育委員会事務局教育部長、三浦企業局水道部長、
高野企業局交通部次長、長内青森地域広域事務組合事務局長 計9人

【事務局】 齊藤企画調整課長、杉田企画調整課主幹、工藤企画調整課主事 計3人

【配付資料】

- ・次第
- ・青森市総合計画審議会 分科会の各資料について
- ・第4回分科会の御意見の反映状況について
- ・第4回分科会の御意見のうち反映するもの以外の御意見の取扱いについて
- ・青森市総合計画前期基本計画（素案）〔第3分科会関連部分〕
- ・青森市総合計画基本構想（素案）に関する地域説明会等の結果について
- ・総合計画基本構想（素案）説明会意見一覧
- ・総合計画基本構想（素案）・（案）新旧対照表
- ・青森市総合計画基本構想（案）

【会議概要】

○事務局から、基本構想（素案）に関する地域説明会等の結果を報告した後、資料の見方について説明し、各委員が意見を出し合った。

○審議、質疑応答の概要

第4回分科会の御意見の取扱いについて

（委員）

・資料2のNo.2の取扱いに、都市計画マスタープランで個別に具体例を記載しているとあるが、どのようなかたちで入っているのか。

（関係部局）

・国において、複数の拠点を公共交通等のネットワークで結ぶコンパクト・プラス・ネットワークという政策を打ち出しており、本市においても、大きな方向性として、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の中でコンパクト・プラス・ネットワークをうたっているところ。言葉のみでは具体ですぐにお示しはできないが、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を御覧いただくと、地図上で、こういった形で拠点を結んでい

くという図が出てくるかと思う。

(委員)

- ・ここに取り上げられている以外の拠点も、都市マスタープラン等のほうには大まかに網羅されているのか。

(関係部局)

- ・総合計画の施策1にある、4つの都市機能の拠点である地区拠点区域については、立地適正化計画のほうで挙げられている。その他の場所については、市全体の都市機能の誘導や居住の誘導などの用途の誘導というところで総論的に記載している。総合計画の中では、6つの地区拠点区域それぞれの施策について具体的に記載しているが、その他の地区においても大まかな方針に基づいて施策を実施しているところ。

(委員)

- ・他の分科会のほうにシフトしましたという記載が何箇所ある。分科会の議論の末に絵として出来上がったものが必要だと思うが、それはどのタイミングで作られる予定なのかを教えていただけないか。特に若者の視点が入っているかどうかがとても大事だと思う。

(委員)

- ・都市マスタープランを確認しつつ、議論したことをもう一度地図でレイヤーのように重ねていき、ここだけではなく他のセクションを含めて足りない部分がないか確認作業したほうがいい。

(委員)

- ・スケジュール上では分科会会長だけの会議の中で検討されることになる。その後、最終的に開催される総会の中で可能な限り議論されることになると思う。分科会は今回で終了するが、総括分科会でいただいた意見を踏まえて議論すると俯瞰して見ていくことになる。それを最終的には7月の総会でお伺いする流れになると思う。

資料3 青森市総合計画前期基本計画（素案）第3分科会関連部分

(委員)

- ・確認だが、空欄の目標値は後から決められるもので、今回審議するものは基準値が妥当かどうかということか。

(委員)

- ・目標とする指標そのものが項目としてこれで良いのか。例えば「居住誘導区域内の居住人口密度」が指標としてこれで良いのかということも含めての審議となる。

(委員)

- ・居住誘導区域とはどういうものか。

(関係部局)

- ・居住誘導すべき区域というものを立地適正化計画で定めている。

(委員)

- ・資料にある青森駅周辺、新青森駅、操車場、浪岡駅、造道、浜田地区のことか。

(関係部局)

- ・もう少し広い範囲であり、細かい話になるが、具体的には公共交通が通じているエリアから半径何百メートルなどと設定されている。

(委員)

- ・これらの項目は今回新しく設定しているが、今までもこの指標なのか。

(事務局)

- ・同じ指標もあれば新しく設定した指標もある。

(委員)

- ・前も使っていないと、うまくいっているかどうかの比較ができないと思う。

(委員)

- ・違うのはどの指標か。

(事務局)

- ・施策1では4ページの施策1の指標は前回と同じだが、5ページの施策2は中心市街地の施策は今回新たな施策となるので指標も新たなものとなっている。6ページの施策3も同様に新しい施策と指標になる。

(委員)

- ・総合計画で見ると中心市街地の見込客などの指標はないが、個別計画などでは指標として出していると思うので、そもそも総合計画で指標とするのかどうかはまた別の話になってくると思う。個別計画で載っている指標もあるのでそちらで比較はできると思う。

(委員)

- ・誘導地域内の人口密度を比較するのがベースになることは分かるが、それ以外の地域の数値を上げなくてもいいのかという点についてはどのような説明をするのか。これが良

くないというようなことではなく、そのエリアに集中的に施策を誘導してしまうことになりかねないのではないかと。

(事務局)

- ・考え方とすると各政策に基本方向を設定している。1 ページ目だと、最初に基本方向があり、これらを実現するための目指すべき方向性として、施策の1 から3 を設定し、その施策ごとに1 番進捗を測ることが出来る指標を設定している。

(委員)

- ・いろんなスケールで測っているということで理解した。

(委員)

- ・「居住誘導区域内の居住人口密度」について、人口が減る中でどう設定するのか、目標値の設定は難しいと思う。

(事務局)

- ・指標によっては目標値が減少する指標もある。

(委員)

- ・前回の総合計画にも目標値が減少するものもあるが、ちゃんと根拠がある。いわゆる下支えするという、これ以上は下げないような目標値にすることは確かにあると思う。

(委員)

- ・施策2 の指標について、観光施設入込客数の具体的な施設名として、八甲田丸、アスパム、ねぶたの家ワ・ラッセの3 施設があるが、例えば文化会館、アウガのホールや5 階の広場などの入込数も指標に含めたらどうか。

(委員)

- ・御意見の指標は個々にはないが、例えば商工会議所でも中心部の入込人数を出していると思う。ただ、基準値といっても色々、コロナで若干揺れ動く部分があると思う。

(委員)

- ・駅前ビーチも展示館も新しくなったので、その辺の指標を少しずつ更新するなどすればいい。観光施設に絞り込んでいるが、施策の前段階で、文化・芸術に親しめるまちづくりという項目があるので、それを反映するのであれば、観光施設だけではなく文化アート系の施設も指標に取り入れたほうが良いとは思っている。ただ、そうすると、これまでの数値よりも一気に数字が大きくなるのでベンチマークとして正しいかどうか疑問である。

(委員)

- ・ベンチマークの立て方が乱高下してしまうと良くない。おそらく歩行者通行量は商工会議所で年2回やっているものをベースにしていると思うので、データとしては経年の流れは掴める指標となっているのかなという気はする。

(委員)

- ・今後、公共の空地利用のあり方を整理することを考えていくと、そのような指標も当然必要になってくるであろう。これまでの増減の比較などもあるが、わかりやすく新しいサービスを展開していったときに、指標は非常に重要なので、指標の数字を上げるために施策を努力すると、それから外れた施設は対象外ってことになってしまう。そこをフォローアップしていくことは、新しいコンセプトとして必要なのではないかと思う。そこは事務局のほうで考慮したほうがいい。

(委員)

- ・大きな基本構想に基づく基本計画なので、指標はある程度大きなもの1つか2つ程度で、あとはそれぞれ個別計画の中で具体化した指標が出てくると思う。

(委員)

- ・それで良ければいい。

(委員)

- ・例えばイベントを企画した数、特にイベントごとの年齢構成で若い人がいかに参加しているかが見えると、相乗効果で人を呼び寄せるような気がする。

(委員)

- ・新しい都市機能には新しいベンチマークが必要だと思う。指標のバリエーションをもう少し増やす必要がある。例えば、イベントはすごく多いので、それをどうやってうまく繋げるかが大きなところだと思う。やっぱり指標を新しい考えにする必要がやっぱりある。そうしないと政策に反映できない。ベンチマークとして評価が、基準がなかったら増えたかどうかわからない。

(委員)

- ・ただイベントの数をどうやって把握するかということ。

(委員)

- ・例えば郊外においてはスポーツ広場でもマルシェ事業をやっているし、これから朝市をやるというような話もあるので、そういう指標が反映されると良い。都市の活性化という指標としては非常に重要なものになってくる。コーヒーフェスは数日間で何万人も来

ている。正しく評価するようにしていかないと正しく施策が動かないと思う。

(委員)

- ・最初から100点満点を狙うと大変なので、まずはファーストステップとしてやってみて徐々に広げていったらいいと思う。

(事務局)

- ・例えば市の主催事業であれば実績を抑えているが、各イベントで年齢構成を抑えられるかという難しい部分がある。

(委員)

- ・港まつりとか主要な大きなもの、特にメインイベントのねぶた祭などの肝心要のところは捨てるはいけない。

(委員)

- ・この基本計画の中にあらゆるものを網羅しているわけではなく、個別計画などでは、例えば商工会議所などの他団体がデータを持っており、ベンチマークを立ててやっていくということ。

(事務局)

- ・御指摘のとおり。加えて、各事業レベルではイベントで何人も集まったというような実績は出している。今回の総合計画の指標は、もう少し大きい施策レベルを評価していくための指標とするものである。

(委員)

- ・ねぶた祭はまさに青森のメインイベントであるし、観光や交流、今であればアートにも展開しようとしているので、やっぱり政策の上で1つ大きな指標として組み込まれてないのは意外に思う。

(事務局)

- ・御意見を実現するために、例えばスマートフォンを利用したビッグデータでどこまでできるかなど、新しい技術も活用しながら、今までなかったような指標については今後考えていかなければいけないと思う。ただ、新たな集計方法などのデータ環境がどう変わっていくのかも含めて勉強していきたい。

(委員)

- ・今日もプリンセス号が来ていて外国のお客様で町が溢れ返っている状態なので、そういう指標も欠けていたら良くない。具体的な対応はこれからだとしても、何かしら対応し

ていくということは必要だと思う。

(委員)

- ・仮に実績が減少してもマイナス評価も含めて指標化することが必要。マイナスになった場合はどうするか対応を考えるにしてもまず数字がベースになると思う。クルーズ船やイベントなど、青森はそのような資産をたくさん持っているので、どのようにアクセスされているかという指標は政策レベルで把握すべきだと思う。

(委員)

- ・先ほど言ったように長期的な総合計画の中では大まかになるが、個別計画などでデータ化していると思うので、その点をお含み頂きたい。

(委員)

- ・施策1のところ、居住人口の密度のみ指標が1つだが、公共交通について、例えば青森駅、新青森駅の乗降者数などの指標が入れられると交通の利用者数が見えてくる。

(事務局)

- ・資料3の15ページ、16ページのところで、交通に関する施策の方で指標としている。

(委員)

- ・実績の取り方について、JRから年に1回数字をもらってそれを公開しているのか。

(事務局)

- ・JRのホームページで青森駅を含め各駅の年間の乗車人数が出ており、その実績を取りまとめている。

(委員)

- ・例えば市民の意識調査も行っていると思うが、そのような指標はあまり使わないものなのか。

(事務局)

- ・以前の総合計画では指標として使用していたこともあるが、指標となる質問自体が毎年変わる可能性がある。指標は5年間確実に測れるものを案として出しており、意識調査のほうで質問が消える可能性があるため指標としていないもの。

(委員)

- ・指標は各部局との調整を経たものか。

(事務局)

・お見込みのとおり。

○今日の意見の取扱等の事務連絡を行い解散。